

総合福祉学科 授業科目概要(2024年度)

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
人間と社会	16		1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の原点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。 2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身に着ける。 3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。 4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。 5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。	1	現代倫理	倫理学を基調として現代の青年たちに欠落している面を追及し、「全人教育」に向ける。「生きる」ことの意味を考察させることから、さらに「働く」ことの意味を考えさせる。	齋藤照安	高等学校校長及び専門学校校長としての実務経験	1	30	60	4	講義
				2	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	相談援助の理論を基盤とした対人援助職の基礎的学習を行う。同時に、介護職の基本である多職種連携の重要性のもと、それぞれの役割と機能を考える。	井川真世	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	1	15	30	2	講義
				3	チームマネジメント論	現場で起こりうる課題を題材にした事例を活用し、ケースメソッドによる学習を通して業務課題の発見や、リーダー・フォロワーの役割について義目的に考える。	川崎誠之	特別養護老人ホームにおける生活相談員としての実務経験	1	15	30	2	講義
				4	社会福祉概論	社会福祉全般にわたる概念や価値について学び、他の各論との接点を見出す。同時に、実践場面において、それらの概念や価値がどのように生かされるのかについて学ぶ。	井川真世	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	1	30	60	4	講義
				5	老人福祉論Ⅰ	少子・高齢化の現状、要介護高齢者と家族の現状について学び、それらを支える法制度として、介護保険法の功罪について学ぶ。同時に、福祉・介護の仕事の基盤となる法制度について学ぶ。	加藤浩和	特養、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				6	障害者福祉論Ⅰ	障害者と自立観、障害者の実態について学び、それらをお支える法制度として、障害者総合支援法の功罪について学ぶ。同時に、障害者政策をめぐる国際動向と障害者権利条約について学ぶ。	石田麗	障がい者支援施設における介護福祉士としての実務経験	1	15	30	2	講義
介護福祉士養成課程専門科目	介護	62	1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 6. 各地域での学びを統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。	7	介護概論Ⅰ	介護の目的、機能、範囲を理解し、専門職業としての介護を理解する。利用者様の尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護サービスを理解する。	山田英介	特養、有料老人ホームにおける介護福祉士としての実務経験	1	30	60	4	講義
				8	介護概論Ⅱ	介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、介護従事者の倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント等の概念を明確にする。	山田英介	特養、有料老人ホームにおける介護福祉士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				9	チームケア論	最適なサービスが独善的にならず、総合的・包括的に提供されることの必要性を知り、そのために専門職、家族や地域が連携し、切れ目なく一体的に支援していくことの重要性を考える。	隈本つばさ	老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				10	リハビリテーション論	リハビリテーションにおける尊厳を支える介護の考え方、自立に向けた介護展開方法を学ぶ。ICFの視点に基づいた利用者のアセスメントができる。	荒木綾子	総合病院における理学療法士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				11	形態別コミュニケーション技術	人間関係の形成・障害への支援的対応・情報授受や保管に関する文章記録の技術、これらの側面に対応するコミュニケーション技術の必要性を学び、習得する。	山田英介 笠原昭男 塚田祥子	介護福祉士、養護教諭、手話通訳士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				12	生活支援技術(概論)	生活支援の内容と、支援が目指す生活の質を理解する。利用者を「生活者」としてとらえ、自立に向けた援助方法を学ぶ。	隈本つばさ	老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				13	生活支援技術(住居)	生活者の自立に向けた快適で安全な住環境の整備に必要な知識、技術を身につける。それを実現する技術と方法や居住環境の整備を実現できる能力を養う。	外山知徳	—	2	15	30	2	講義
				14	生活支援技術(被服)	高齢者・障害者を「生活者」という観点で考え、被服生活を支援する上で必要な知識、技術を身につけ、介護の場面を想定し、実践力を身につける能力を習得する。	伊藤知圭子	—	2	15	30	2	講義
				15	生活支援技術(調理)	高齢者・障害者の状況および介護者自身にあった栄養と調理について専門的知識・技術を身につけ、利用者の身体と心の健康づくりに役立て、潤いのある充実した食生活が創造できる支援者としての能力を養う。	伊藤知圭子	総合病院における調理師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				16	生活支援技術Ⅰ(介護)	利用者の自立を目指した生活支援、潜在能力を引き出すとは何かを考え、安全・安楽を踏まえた基礎的な知識や技術、態度を習得する。	隈本つばさ 加藤浩和	老人保健施設、特養における介護福祉士としての実務経験	1	30	60	4	演習
				17	生活支援技術Ⅱ(介護)	障害のある要介護者の尊厳を保持し、生活の中でどのような困難を抱えているのかを見極める力を養う。同時に、障害そのものへの理解を深める。	隈本つばさ 加藤浩和	老人保健施設、特養における介護福祉士としての実務経験	2	15	30	2	演習
				18	レクリエーション論	レクリエーションの果たす役割を理解するとともに、具体的な方法や、コミュニケーションの基本を身につけ、レクリエーション支援者としての在り方を学ぶ。	和久田一夫	障がい者施設における福祉レクリエーションワーカー	1	15	30	2	講義
				19	レクリエーション活動援助技法	レクリエーションの提供を効果的に行うためのコミュニケーション技術や、ホスピタリティの構築方法を考えるとともに、実技を通じて計画作成能力・実践能力を身につける。	和久田一夫	障がい者施設における福祉レクリエーションワーカー	2	30	60	4	講義
				20	介護過程Ⅰ	介護計画の意義を考え、個別性・尊厳・倫理に基づいた介護過程の展開ができるよう、基本的な介護過程の構成、ICFに対する理解を深める。	石田麗	障がい者支援施設における介護福祉士としての実務経験	1	45	90	6	講義
				21	介護過程Ⅱ	知識や技術を統合し、ニーズを捉える視点を養う。具体的な事例から、情報収集の展開、介護過程の実践的な展開を行い、評価・再アセスメントの重要性を考える。	加藤浩和	特養、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				22	介護総合演習Ⅰ(日本語表現)	介護実習を行ううえでの介護福祉士としての心構え、社会人としてのマナーを理解し、利用者の個性を尊重した介護実践に発展できる能力を養う。	隈本つばさ 加藤浩和	老人保健施設、特養における介護福祉士としての実務経験	1	15	30	1	演習
				23	介護総合演習Ⅱ	介護福祉士としての自覚を促し、実習での経験を重ねながら、専門職に求められる資質や総合的な能力を習得する。	隈本つばさ 加藤浩和 山田英介	老人保健施設、障害者支援施設、特養、有料老人ホームにおける介護福祉士としての実務経験	2	45	90	3	演習
				24	介護実習Ⅰ	さまざまな生活の場における個人の生活を理解したうえで、個別ケアを考え、コミュニケーションの実施、他職種協働を通じ介護福祉士としての役割について理解する。	隈本つばさ 石田麗 加藤浩和 山田英介	特養、有料老人ホーム、障害者支援施設、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	1	60	120	3	実習

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修 学年	コマ数	授業 時数	単位数	授業 形態
				25	介護実習Ⅱ	個別性理解のもと介護計画の立案・実施・評価を行う。 具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を養い、チームの一員として他職種連携の重要性を学ぶ。	隈本つばさ 石田麗 加藤浩和 山田英介	特養、有料老人ホーム、障害者支援施設、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	2	180	360	9	実習
介護福祉士養成課程専門科目	こころとからだのしくみ	20	1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的にとらえるための知識を身につける。 2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療関連職種と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。 3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基本的な知識を養う。	26	発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達の観点から老化を理解し、各発達段階での発達課題、心身機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。	本多祥子	総合病院における看護師としての実務経験	1	15	30	2	講義
				27	発達と老化の理解Ⅱ	老年期のある人の身体的・心理的・社会的側面の変化、特徴を理解し、高齢者を多面的に理解できる力を養う。「老い」や「死」について考え、自己の死生観・幸福観・老年観の確立に結びつける。	本多祥子	総合病院における看護師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				28	認知症の理解	認知症の医学的側面、種類、特徴、介護方法などの認知症に関する基礎知識を習得し、認知症の人の理解に結びつける。認知症を取り巻く環境、チームアプローチ、家族支援などの視点を養う。	三嶋秀子 加藤浩和	病院における看護師、特養における介護福祉士としての実務経験	1	30	60	4	講義
				29	障害の理解Ⅰ	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。＜概論＞	三嶋秀子	病院における看護師としての実務経験	1	15	30	2	講義
				30	障害の理解Ⅱ	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。＜各論＞	三嶋秀子	病院における看護師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				31	からだのしくみ	医学概論で学んだ身体のしくみをさらに深め、人体の構造や機能の知識を理解した上で、根拠に基づいた適切な介護の展開ができる。	三嶋秀子	病院における看護師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				32	医学一般	介護を行う上で心身機能と身体構造は、当然必要で理解しておかなければならない知識である。利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、安全でより充実した介護サービスが提供できるよう知識を深める。	三嶋秀子	病院における看護師としての実務経験	1	15	30	2	講義
				33	こころのしくみ	介護実践に必要な知識という観点から、こころのしくみについての知識を養う。	三嶋秀子	病院(精神科)における精神科看護師長としての実務経験	2	15	30	2	講義
				34	心理学	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。人の成長、発達と心理との関係について理解する。	土屋廣人	児童相談所における臨床心理士としての実務経験	1	15	30	2	講義
	医療的ケア	6	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。	35	医療的ケアⅠ	福祉領域の専門家である介護福祉士が、医療分野の理念や倫理を理解し、喀痰吸引・経管栄養についての基礎的知識を習得する。	三嶋秀子 小林涼	総合病院における看護師・保健師としての実務経験	1	30	60	4	講義
				36	医療的ケアⅡ	喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生の実施手順、留意点を理解し、安心・安全・安楽に基づいた技術を身につける。	三嶋秀子 小林涼	総合病院における看護師・保健師としての実務経験	2	15	30	2	講義
社会福祉主事課程		28	1 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解させる。 2 社会福祉の発達の過程と方向性について理解させる。 3 福祉サービスの提供方法と組織運営の原則について理解させる。 4 社会福祉従事者の現状及び専門職制度について理解させ、連携の基盤を形成する。 5 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。	37	児童福祉論	社会福祉専門職として必要な児童福祉法関係の知識を身につけ、児童福祉をめぐる情勢を学ぶ。	土屋廣人	静岡県庁での児童福祉分野の施設・機関における実務経験	2	15	30	2	講義
				38	地域福祉論	現在の社会福祉の基本理念である地域福祉の推進の意義と意味を理解し、社会福祉専門職として必要な地域福祉に関する法制度と地域福祉をめぐる情勢を学ぶ。	塚本鶴樹	JICAの派遣による各国の地域開発プログラムにおける実務経験	2	30	60	4	講義
				39	法学	法学の基本的な理論と構造について学び、社会福祉専門職として法制度を活用できる基礎知識とする。	橋野幸男	政府系金融機関の支店において法学士の知識を利用し、契約・融資審査・債権管理の実務を担当	2	15	30	2	講義
				40	経済学	現代社会の経済の基本的構造を学ぶとともに、実際の経済の流れを示す教材を提供しながら、日々の生活と経済の関連を具体的にイメージできるようにする。	中村徹	経済学士、高校社会科教員としての実務経験	3	15	30	2	講義
				41	社会福祉援助技術演習	社会福祉専門職として必要な基礎的な援助技術の方法に関する全体像を具体的に学ぶ	井川真世	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	2	15	30	1	演習
				42	福祉事務所運営論	日本の社会保障制度の公的な地域の窓口である福祉事務所の歴史と機能・役割と課題を理解し、生活保護を中心とした今後の社会保障のあり方に関して学ぶ。	石川 順	焼津市役所における福祉事務所での実務経験	3	15	30	2	講義
				43	社会福祉施設経営論	社会福祉施設の経営のあり方に関する歴史と理論を学び、競争原理のもと、措置から契約へと移行した施設経営の今後に関して学ぶ。	宮本登	静岡県立施設での管理職としての実務経験	3	30	60	4	講義
				44	社会福祉現場実習指導Ⅰ	相談援助の実習を行うために必要な知識として、実習先の種別や機能、根拠法などについて学び、あわせて、相談援助の技術やプロセスなどについて学ぶ。	井川真世	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	2	15	30	2	講義
				45	社会福祉現場実習指導Ⅱ	相談援助の実習を行うために必要な知識として、実習先の種別や機能、根拠法などについて学び、実際に実習に行く実習先の概要と法的根拠、求められる相談援助の機能と技術について学ぶ。	井川真世	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	3	15	30	2	講義
				46	社会福祉現場実習	社会福祉関係の各種機関・団体、施設での相談援助実習をとおして、相談援助業務の実際と相談援助業務の特性について学ぶ。	井川真世 石田麗	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験と障害者支援施設における相談員としての実務経験	3	60	120	3	実習
				47	社会福祉行政論	社会福祉政策の基盤である行財政の基本を学ぶとともに、福祉系核の経緯と今後の展望に関して学ぶ。	磯野博	—	3	15	30	2	講義
				48	家庭福祉論	児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。また、それらの方々の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方を理解する。	宮本登	児童相談所、母子生活支援施設での管理職としての実務経験	3	15	30	2	講義

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
社会福祉分野	社会福祉士コース	46	1.「日本社会福祉士会倫理綱領」を基礎として、ソーシャルワーカーとしての職業倫理を具体的に理解する。 2. クライアントが抱える「身体上・精神上的の障害」、「日常生活に支障を及ぼす環境」などをアセスメントする援助方法・技術を身に付ける。 3. 保健・医療・福祉全般に渡り専門的知識・技術が活用できるジェネラリストソーシャルワーカーを養成する。 4. 地域住民のニーズや生活課題を理解し、広く地域社会に貢献する専門職を養成する。	49	社会学	少子・高齢化や家族形態の変化といった社会の変動を社会学の観点から捉えるとともに、相談援助の対象者が抱える生活問題との関連に関して学ぶ。	塚本鶴樹	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験	3	15	30	2	講義
				50	社会調査の基礎	社会調査と相談援助の関連を学ぶとともに、相談援助における社会調査の実践的な活用の方法を学ぶ。	塚本鶴樹	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験	3	15	30	2	講義
				51	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	社会福祉政策の基盤である行財政の基本を学ぶとともに、福祉系核の経緯と今後の展望に関して学ぶ。	塚本鶴樹	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験	3	15	30	2	講義
				52	相談援助の理論と方法	社会保障をめぐる国内外の現状と課題を学ぶとともに、社会保障のあり方に関する複数の選択肢に関して学び、今後の社会保障のあり方を展望する。	塚本鶴樹	横浜市社会福祉専門職として福祉事務所のケースワーカーに従事した実務経験	3	60	120	8	講義
				53	社会保障論Ⅰ	障害者と自立親障害者の実態について学び、それらを支える法制度として障害者総合支援法の功罪について学ぶ。同時に、障害者制作をめぐる国際動向と、障害者権利条約について学ぶ。	磯野博	—	3	15	30	2	講義
				54	社会保障論Ⅱ	社会福祉専門職が求められる相談援助の理論や価値、倫理などを踏まえ、相談援助の理論と方法についてより専門的に学ぶ。	磯野博	—	3	15	30	2	講義
				55	老人福祉論Ⅱ	老人福祉法の基本理念を踏まえ、介護保険法以外の老人福祉関連政策の動向やそれらの関連について学ぶ。	井川真世 加藤浩和	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験 特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験	3	15	30	2	講義
				56	障害者福祉論Ⅱ	障害者福祉をめぐる国際動向を踏まえ、日本の障害者福祉の同行について学ぶ。そして、障害者権利条約に適合した日本の障害者福祉のあり方を学ぶ。	石田麗	障がい者支援施設における介護福祉士としての実務経験	3	15	30	2	講義
				27	生活保護制度	生活保護の原理・原則を踏まえ、日本と欧米の公的扶助の形成過程を学ぶ。そして、日本の生活保護の現状と課題を学び、今後の生活保護のあり方を展望する。	磯野博	—	3	15	30	2	講義
				58	保健医療サービス	保健・医療をめぐる現状と課題を学ぶとともに、保健・医療と相談援助の関連を学ぶこととおして、今後の相談援助のあり方に関する方向性を展望する。	三嶋秀子	病院における看護師としての実務経験	3	15	30	2	講義
				59	更生保護制度	更生保護をめぐる歴史を概観し、相談援助の新たな分野である更生保護と相談援助の関連を学ぶ。そして、これらの課題に関する今後の方向性を展望する。	遠藤司	更生保護施設における社会福祉士としての実務経験	3	8	30	2	講義
				60	権利擁護と成年後見制度	権利擁護に関する法制度の概要を学ぶとともに、権利擁護と相談援助の関連を学ぶこととおして、相談援助の新たな役割について展望する。	井川真世	—	3	15	30	2	講義
				61	相談援助演習	相談援助をめぐる多様な事例を検討することとおして、相談援助の実践的な技術を具体的に学ぶ。そして、複数の相談援助の技法に関する認識を深める。	石田麗	障がい者就労支援事業所における相談員としての実務経験	3	60	120	4	演習
				62	相談援助実習指導	相談援助の実習を行うために必要な知識として、実習先の種別や機能、根拠法などについて学び、実際に実習に行く実習先の概要と法的根拠、求められる相談援助の機能と技術について学ぶ。	井川真世	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験	3	15	30	2	講義
				63	相談援助実習	社会福祉関係の各種機関・団体、施設での相談援助実習をおとして、相談援助業務の実際と相談援助業務の特性について学ぶとともに、個別支援計画の立案を行う。	井川真世 石田麗	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験 と障害者支援施設における相談員としての実務経験	3	40	80	2	実習
				64	ゼミナール(福祉研究・ICT活用技術)Ⅱ	今の社会における地域課題や未来における福祉業界について、調査、研究していく。自分たちで地域課題、社会福祉課題を挙げ、それに対応するために何が筆世なのか考えていく。同時に、地域活動に参加し、地域住民や生活のし辛さを抱えている当人達より情報を集める等積極的に地域に関わっていく。	井川真世 石田麗 加藤浩和	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験、障害者支援施設における相談員としての実務経験、老人保健施設における相談員としての実務経験	3	60	120	8	講義
関連分野	共通	8	本学独自のカリキュラム内容であり、今後職業人として活躍するために必要な内容を取り入れ、職業人としてのスキルを強化する。	65	ビジネス実務	職業教育・キャリア教育の必要性和重要性が益々高まってきた中で、学生のキャリアビジョンを構築していく。同時にビジネス能力の向上が図れるよう、ビジネス能力検定ジョブパス3級の検定資格取得を目指す。	伊藤知圭子	—	1	15	30	2	講義
				66	就職指導	学生が自分の能力と適性にあった施設・病院に就職するには、自分自身を客観的に知り、施設・病院側の情報を収集し、筆記試験や面接試験の準備を行う。	原木伴美	—	2	15	30	2	講義
				67	ゼミナール(福祉研究・ICT活用技法)Ⅰ	働く意義や職業選択の考え方から職業人としての心構えを身につける。また、実施している介護が科学的根拠に裏づけられたものであるかを実証していくことの意義を考え、論拠と主張を持って他者にわかるよう論述する方法を学ぶ。	井川真世 石田麗 加藤浩和	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験、障害者支援施設における相談員としての実務経験、老人保健施設における相談員としての実務経験	1 2	30	60	4	講義
実務経験者合計									合計	1,668	3,350	186	168 90%